



富山県立総合衛生学院

# 看護学科 閉科式



日時：令和3年3月4日(木) 14:00～

会場：総合衛生学院 講堂 (富山県立大学 富山キャンパス)

# 記念式典

## 式次第

開式の辞

国歌斉唱

式辞

学院長

稲村睦子

知事告辞

富山県知事

新田八朗

来賓挨拶

富山県看護協会会長

松原直美

来賓紹介

学生代表挨拶

3年生代表

小林実季

電報披露

校歌斉唱

閉式の辞



富山県立総合衛生学院校歌

作詞 和田 徳一  
作曲 小沢慎一郎

一 学びの窓の 朝夕に

雪の立山 仰ぎつつ

理想は高く 清らかに

看護の道を 究めんと

集い来りて 学ぶなる

若きわれらに 誇りあり

二 生老病死の 人の世に

幸あれかすと 祈りつつ

誠のこころ 一すじに

福祉の道に 尽さんと

励むわれらの 使命感

若き血潮は たぎるなり



# ご挨拶

富山県知事 新田 八朗



このたび、富山県立総合衛生学院の看護学科の閉科を迎えるにあたり、ご挨拶申し上げます。

本学科は、1951年（昭和26年）に、私立不二越病院附属甲種看護婦養成所を引き継ぎ、県立中央病院附属高等看護学院が開設した際に設けられ、以来、70年の長きにわたり、5,200余名の看護職員を県内外の医療機関等へ輩出してまいりました。

卒業生の皆様は、人々への深い関心と洞察力・判断力・倫理観を備えた健康の担い手として、保健・医療・福祉の幅広い分野で活躍されています。また、新型コロナウイルス感染症により、緊張感が伴う厳しい状況が続くなかでも、誇りと使命感を持って、各所で献身的にご尽力をいただいているところです。

ここに、これまで本学科を支えてこられた歴代学院長をはじめ教職員の皆様、県立中央病院及び関係の皆様のご並々ならぬご尽力、そして、卒業生の皆様のご活躍に、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

今後、本学科の看護師養成機能は、4年制の県立大学看護学部へと引き継がれます。より質の高い教育によって、本県の将来を担う意欲ある人材を育成し、医療の高度化・専門化、地域包括ケア体制の整備への対応など、医療等の現場からの多様な専門性の高いニーズに応えていけるよう、県としても関係機関と連携し取り組んでまいります。

終わりに、これまでの本学科の発展と看護教育の充実にご尽力を賜りました関係の皆様重ねて深く感謝申し上げます。

学院長 稲村 睦子



本日ここに富山県立総合衛生学院看護学科の閉科式を迎えることになりました。

看護学科は、昭和26年に保健師助産師看護師法に基づき、私立不二越病院附属看護婦養成所から継承し、富山県立中央病院附属高等看護学院として設立され、20名の看護師養成が始められ、昭和40年に看護学科に第2部として夜間課程が新設されました。昭和46年に富山県立総合衛生学院に改称され、昭和50年に看護学科は第一看護学科と第二看護学科の2科になりましたが、平成20年には第二看護学科を閉科し、第一看護学科を看護学科として改称しました。

富山県立中央病院附属高等看護学院として19年間、富山県立総合衛生学院として50年間に5,261人の有能な看護師を送り出してきました。設立当初から隣接した富山県立中央病院で臨地実習を行い、最先端の医学・医療を学び、高度医療の看護を経験した卒業生達は、現在も多数が、保健医療福祉の各分野で活躍し、大きな役割を果たしています。

看護学科は、看護師として看護の実践活動を通して保健医療福祉に貢献する能力をもった人材を育成することや、人々への深い関心と洞察力・判断力・倫理観を備え、県民に寄与できる看護職を育成することを目的として教育にあたってきました。質の高い教育への教員の弛まぬ努力が伝統となり、卒業生の皆さんは、3年間で学業のみならず、多くのことを学び得ました。また、戴帽式の「看護の勉学と明日への献身」を誓う学生達の真摯な姿は印象深く心に残っているとともに、実習に送り出す私たちの決意ともなりました。

昨今の社会・医療は数々の問題を抱え、看護に求められることも多岐に亘り、看護職者の自律が求められています。本校で看護の原点を学んだ卒業生の皆様が、今後さらに活躍されることを願っています。

最後になりましたが、これまで本学院の運営に携わっていただきました多くの方々、ご指導・ご支援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

# 閉科によせて

看護学科同窓会 会長 宮原 百合子

このたび、富山県立総合衛生学院看護学科の閉科を迎えるにあたり、看護学科同窓会を代表してご挨拶を申し上げます。

富山県立総合衛生学院看護学科同窓会は、昭和31年に発足してから、昭和・平成・令和と富山県立総合衛生学院と共に歴史を刻んで参りました。卒業生は、甲種1期生、高看2期生から15期生、高看1部16期生から21期生、高看2部1期生から4期生、看護学科1回生から令和2年度卒業生の50回生まで、同窓生は5,200余名となりました。

医学の進歩、先進・高度医療の発展、また少子・超高齢化に伴い、看護職を取り巻く環境は大きく変化し、私たち看護職は医療の現場のみならず地域社会のあらゆる場所での活躍が期待されています。同窓生の皆さんは、看護学科の卒業生であることを誇りに思い、県内外はもとより、海外でも活躍されています。また、定年退職後も現役として活躍されている方も多くおられます。看護職は生涯の仕事として貢献できる職業であると心から思います。

閉科に伴い、残念ながら同窓会も活動を終えることとなります。しかしながら、同窓生は皆心一つです。これからも本学院看護学科の歴史を誇りとして胸に抱き進んでまいります。

看護学科3年生（50回生） 小林 実季

本日、私たち84名は、看護学科の最後の卒業生として、閉科の日を迎えることとなりました。

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、私たちの学生生活は一変しました。例年より臨地で実習ができる日数は減少しましたが、臨地実習指導者の熱心なご指導により充実した学びを得ることができ、無事に実習をやり遂げることができました。患者さんへの看護を実践する中で、自身の未熟さにもどかしさを感じ、個人に応じた最良の看護について悩むことが多くありました。しかし、私たちにはいつも悩みを分かち合える仲間がいました。そして、親身に話を聴き、励ましてくださる先生方の存在がありました。私たちは決して一人の力ではなく、多くの支えの中で成長することができました。

伝統ある学院で学び培った知識や技術を基に、対象に寄り添い、期待に応えることができるよう、今後も努力を続けていきます。そして、富山県立総合衛生学院看護学科の卒業生としての誇りをもって、社会に求められる看護職となり、保健医療福祉の向上に貢献したいと思っております。



# 看護学科沿革

昭和26年	私立不二越病院附属甲種看護婦養成所を継承し、富山県立中央病院附属高等看護学院として設立
昭和40年	高等看護学院に第二部として夜間課程を新設し、看護婦養成3年課程を第一部とした
昭和46年	保健婦専門学院を併合して富山県立総合衛生学院とし、保健学科、看護学科の2学科制とした 高等看護学院第一部を第一看護学科、第二部を第二看護学科に改称した
昭和49年	助産学科を新設し、保健学科、助産学科及び看護学科の3学科制とした
昭和50年	看護学科を第一看護学科、第二看護学科にし、4学科制とした
昭和51年	学校教育法に基づく専修学校の専門課程に格付けされた
平成20年	第二看護学科を閉科し、第一看護学科を看護学科に改称、3学科制とした
平成30年	看護学科学生募集停止
令和3年	看護学科 閉科

## 「富山県立総合衛生学院の軌跡」コーナーのご案内

令和4年3月、富山県立総合衛生学院は開設後70年にわたる歴史に幕を下ろします。閉院にあたり、富山県立大学富山キャンパス（図書館棟1階）に『富山県立総合衛生学院の軌跡』のコーナーを設置いたしました。卒業生の皆様には、学生時代の懐かしい日々を思い出していただけるよう、各学科で演習に使用し、受け継がれてきた物品やユニフォームなどを展示しております。是非お立ち寄りください。



場所：富山県立大学富山キャンパス図書館棟1階

## 記念講演 14:45～

演題：「人生100年時代の健幸学 ～健康で幸福な人生の支援者として～」

講師：おおい町国民健康保険名田庄診療所 所長 中村 伸一 先生

リモート講演会のため、講師プロフィールや講演の様子は総合衛生学院ホームページに掲載いたします。

# 総合衛生学院 思い出の写真



昭和26年 初任教務主任 牧田きせ先生



牧田先生と一緒に記念撮影



講義の様子  
真剣に聞いています



緊張した手術室実習



研修旅行で北海道へ  
少年よ、大志を抱け！



新生児室実習中



ボディメカニクスを活用し、  
ベッドメイキングの演習



厳かな灯の儀  
「みまもる心」を合唱しました



階段教室で  
実習オリエン  
テーション中



これから病棟実習に  
向かいます！



現校舎